



寄稿 『私の歩んだ“みち”』 連載 第5回／2話

『初めての関西生活、大いにエンジョイしています』

❖ 小田島 晴夫 (73期/S51年卒)

◆私は、前職のみずほ銀行(前:興銀)からの紹介により、現在大阪の化学会社(神島化学工業)に勤務し単身赴任生活をしています。早いものでもう8年がたちました。最初は全く関西とは縁も所縁もなく、それこそ横手高校の修学旅行で来たことがある程度でしたので、純粋無垢な東北人としては、少し怖く、何か得体が知れない所という印象でした。しかし住んでみると、見るものすべてが新鮮で楽しく興味深く、今ではすっかり関西ファンとなりました。

まず生活面では、関西は大都市圏であるにもかかわらずサイズが関東圏と比較しコンパクトで活動しやすいのが良いですね。コンサート、美術展、催事物等は一流であり、タイガース・ガンバ大阪・宝塚歌劇団などは関西が本家本元で全国銘柄です。(因みに私の妻は、私のスケジュールに関係なく来阪し一人で楽しんでいます。)これらが、約1時間以内の所に集積しているのが非常に便利です。

また、何と言っても関西は歴史の宝庫です。そもそも考えてみれば当然なのですが、古くは神話の時代から、歴史・文化・政治の中心は関東(≒江戸)では無く関西なのです。奈良、京都、神戸、そして和歌山、伊勢、そして少し遠いですが出雲と、神社仏閣・遺跡・景勝地には事欠きません。日本の原点は、やはりここ関西です。

季節の風物詩では、春には京都・奈良・吉野の桜、夏には京都の川床・淀川の花火・甲子園の全国高校野球大会(特に昨年の金足農業の決勝戦は泣けましたね!!)、秋には京都の紅葉、そして冬には山陰地方のカニカニツアー(夫婦で毎年行っています)等等など枚挙に暇はありません。



城崎温泉にてのカニ膳

その合間に、春から秋にかけてのゴルフ、ホームコースである“西宮高原ゴルフ倶楽部”はタフで何回プレーしても飽きません。そして冬には関西近郊でのスキー(福井の“スキージャム勝山”はお気に入りです)とスポーツもかなり楽しんでいます。

スキージャム勝山で



そして最後に忘れてはならないのが、夜の北新地です。数でいえば公私共々一番お世話になっているのではないかと思います。

いま関西は熱く盛り上がっています。今年の花園でのラグビーワールドカップ開催、2025年の万国博覧会、IR(カジノ)とイベントは目白押しです。これらの成功を心から祈念すると共に、今後何処にいても永遠に関西サポーターでありたいと思っています。 <岩手県西和賀・湯田中学校出身> ■

食楽
まんくの花
京阪寝屋川市駅
西口・大利商店街
約100m右入る
TEL 072-839-2987
<月曜定休>

炭火料理と
地酒のお店
京橋あくも
京阪京橋駅 片町口西すぐ TEL 06-6354-7666

『根なし草、大阪に生きる』

◆ 小野 稔 (80期/S58年卒)

◆私は昭和40年に横手市中央町、いわゆる馬口芳町と呼ばれる飲屋街の真中で祖父の代から続く産婦人科医院の長男として生まれた。父は大阪高等医学専門学校(現:大阪医科大学/高槻市)卒業で病理学専門の研究肌、その時お見合いで結婚したのが京都出身で助産婦の母だ。祖父は質素倹約家で極めて厳格な人であり、父に家業の診療所を継いでもらわねばならないため、開業医では役に立たぬ研究などやめて産婦人科医局へ修行に行き実家に帰って来るように命じたらしい。嫌々山口大学に行かされた当時は、ビール片手に子供の私に話したものだ。

さて、横手高校を卒業した私は一年浪人の後、近畿大学医学部に入学する。当時大変お世話になったのが寄生虫学教授の先生なのだが、何と父が病理学教室にいた頃に父の後輩として研究室にいた先生でもあった。それも束の間、その年の秋に父が他界、享年60歳であった。その数ヶ月前、病床の枕元に呼ばれた私は父から思わぬ提案を受ける事になる。

「お前は医学部に入った以上、将来何科を選ぶかわからんが、産婦人科はやめておけ」と。当時医院を継ぐ事は当然と考えていた私は途方に暮れてしまった。産婦人科を希望していた訳ではないが、個人で開業できる診療科はある程度決まってくるのも事実だ。何科に行くべきか? 悩みは卒業年度まで続く事となった。思えば父は先見性があったのかもしれない。現に今、若手の医師は激務でリスクな産婦人科を避け、人手不足でさらに激務になっている。そんな将来像を見透かしていたのだろうか。

ともあれ、国家試験を通り近大医学部附属病院での研修が決まり、さしあたり全身管理が出来る様なれば「多少怖いもんがなくなるんじゃないか?」的な発想で麻酔科に入る事にした。

モノ作りが好きだった私は実のところ形成再建外科の希望はあったのだが、開業を見据えて横手でどの需要を考えると現実的ではなかった。麻酔科ならペインクリニックで開業という手があるし、2年で転科する事も出来る…。(実際2年程度の腰掛け麻酔科医は結構多い) 当時はやはり実家に帰る事を前提に人生設計をしていたのだ。 (ノ)

父が他界して10年余りが過ぎ、その間賃貸していた自宅前の医院は畳む事になった。その頃、私は医局から市立貝塚病院へ出向を命じられ麻酔科に留まり、さらに10年が経つ。この間地元に戻るべきか否か大いに悩んだ末、今や実家の医院も無いことでもあるし、子供もいずれ同じ悩みを抱えるならば、私の代で関西に生きる決断をした。



↑ 貝塚病院出向時の筆者



← 全身麻酔導入中

思えばこの時一度、美入野も捨てたのだ。それが今こうして関西で暮らす多くの美入野出身の方々と交流させていただいている。母方の親戚も関西に多く、振り返れば風に吹かれて飛んできたタンポポの種ではあったが、感謝すべきはそこに根を張る土壤を作ってくれていた事なのである。

<旧横手鳳中学校出身> ■

Topic : 創立120周年記念式典が開催される

横手高等学校創立120周年記念式典が平成30年10月13日(土)午後1時から横手高等学校第二体育館で全校生徒・教職員、同窓生、多くの来賓の方々、1,150人が出席し盛大に開催されました。当会からは、安田最高顧問、石田副会長、鈴木幹事長が出席しました。なお3名とも自費での参加だったことを申し添えます。



*校歌を斉唱する(左から) 鈴木幹事長、石田副会長、安田最高顧問の各氏 (写真は美入野会HPより)

** ご案内 **

(2019年度) 令和元年 総会

6月16日(日) 午後3時半受付開始

*パネルトーク「YOUはなして関西へ?」

於: 大阪キャッスルホテル 7階

京阪電車 天満橋駅西口下車すぐ

<皆さん是非ご参加ください>

朱夏の旅 横手 2018 (特別寄稿)

『横手の“送り盆祭り”』

❖ 柿崎 靖文 (60期/S39年卒)

◆「屋形舟銀河も観たき帰郷せり」～昨年8月16日の送り盆に合わせて帰省した際に詠んだ拙句で、その秋に“さきがけ新聞”に掲載されました。列車通学だった諸姉諸兄は夏休み中なので、この伝統的行事を観る機会は少なかったことと思います。送り盆祭りは、江戸時代の「享保の大飢饉」で亡くなった人々の供養のために始まったと言われ、いつしか市民の楽しみの行事となったそうです。京都の「大文字焼き」と同じ日(8/16)の、暑い盛りですが、立秋の後ですから初秋のお祭りです。私がこの祭りを初めて観たのは、神戸の母の実家から引っ越してきた後の小学1年の時です。上根岸町(現在の横手病院の裏側)の実家から祭りの会場の旧蛇の崎橋までは直線距離で500m程の近さで、2階から、目の前にあった旧北小学校の屋根越しに花火が観られました。ジャンゴの親戚連中もやって来て4枚のガラス窓を外し、歓声を上げた記憶が蘇るお盆でした。40年ほど前に家族と帰省した際に観た送り盆は花火の数が激減して、何だかショボイ感じが否めない印象でしたが、今はまた賑わいのある祭りに復活しているらしいと聞いたので、愛車での旅の日程<芭蕉が歩いた“奥の細道”の逆コース、富山から新潟・山形・岩手・秋田を巡る2,200kmの走行、7泊8日の旅>に組み入れた次第です。

雨の平泉から国道107号で北上・湯田・山内を経由し横手に到着。まずは中学高校の同級生へ電話したところ3人が集まり居酒屋で数献の後、ほろ酔い気分で蛇の崎橋まで歩いての見物。打ち上げ花火は数分に1回とまばらな感じは否めませんが、それでも計26企画の打ち上げ、そのうち10回が川原から、残り的大輪花火などは安全な城山公園の後背部から打ち上げられていました。(右上の写真)



そして、各町内の若衆が担ぐ14艘の屋形舟です。その勇壮なぶつかり合いは見応えがありましたが、休むことなく奏でられる独特の「サイサイ囃子」はこの祭りを盛り上げる最高の“音の風景”でした。

あくる朝、屋形船を出品した町内(例:旧裏町、旧馬喰町、四日町など)をクルマで回っていると、前夜活躍した屋形舟を解体している人々が汗を流していました。筵や藁縄が解かれて骨組みがあらわになった姿は哀れと言うか痛々しいと言うか、寂しさを禁じ得ませんでした。高齢化や人手不足が送り盆祭りの維持に困難を来さないように、市当局や地元企業の支援を期待したいものです。

<旧横手鳳中学校出身> ■

2018年下半期の活動から

① “青雲館” 修学旅行生への激励会を開催

11月20日(火)夕刻、関西美入野会としては初めてとなる横手高校定時制(青雲館)修学旅行生への激励会を開催しました。23名の旅行生を京都駅近くの宿舎“お宿にわ”に訪ねました。

新幹線を乗り継いでの長旅で疲れていたにも拘わらず、19時には生徒さん全員が一堂に会してくれました。当会役員(柿崎・石田・鈴木・草薨)からは、AI時代の人間と仕事のあり方や、関西美入野会や京都の紅葉について案内し、関西に来られたら、どんな時でも「我々OBにまかせときゃ!」等々を伝えました。お土産「北野天満宮・合格祈願鉛筆」



をお渡し。生徒さん代表の高橋佳奈さんから答礼の言葉と、引率の細井先生からの感謝の言葉を頂き、記念写真を撮影。来年も青雲館と普通科の修学旅行の際も激励会を催すことを約束しお別れしました。

② 恒例となった“いものこ会”を開催

10月27日(土)京阪京橋駅近くの“ちくも”にて、第3回目の「いものこ会」を開催しました。当日は、関西美入野会会員とその家族総勢18名が参加しました。校歌斉唱の後、柿崎会長(60期)の挨拶、七尾顧問(57期)の乾杯の音頭で開宴となりました。今年も大仙市出身の徳田商店・徳田社長のプロデュースによる、本場横手山内地区のいもの子、比内鶏、根付きせり等の食材調達と料理のお膳立てのお世話になりました。味噌と醤油仕立て2種類のいもの子汁、きりたんぼ鍋、いぶりがっこ、茄子の花寿司、ハタハタの塩焼き、等を肴に秋田の地酒で大いに盛り上がりました。締めは、今年も筋子を熱々の白ご飯に乗せた筋子飯です。いもの子汁や地産の肴を食べると古里を思い出し、いつまでも話は尽きませんでした。皆さんも是非ご参加を!



③ 「修学旅行生(全日制)激励会」(9月27日)

④ 「母校への図書寄贈」(9月上旬)

～ 会誌「うらやま」第5号にて既報～



平成最後の卒業生が下記の大学に合格しました

京都大(男子)、京都教育大(女子)、関西大(女子)
各1名、計3名

＜2018年度 新任幹事 紹介＞

	築地 達郎 75期/昭和53年卒 龍谷大学准教授(社会学部)
	小野 稔 80期/昭和58年卒 狭山市 榎本病院麻酔科医師

「うらやま」へ寄稿してください。

【テーマ】「私の歩んだみち」ほか「自由題」
…「お勧め旧跡案内」「紀行文」など

*文字数は800～1200字程度

*かならず 関連の写真を添付して下さい。

氏名、卒業期、出身中学校名

を付記して下さい。

寄稿・お問い合わせは 末尾記載の編集担当へ
e-mail でお願ひします。

締め切り：2019年8月末日

＜第7号の発行は 同年10月の予定＞



関西美入野会

発行事務局 幹事長：鈴木 茂夫

e-mail：rsb35118@nifty.ne.jp

編集担当 柿崎 靖文

e-mail：kakistan1945@yahoo.co.jp

学校法人 紫明学園

近畿予備校

(1949年開校)

理事長 蛭川親靖

〒602-8790 京都市上京区
烏丸通今出川下る梅屋町475

TEL 075-441-6681

FAX 075-451-8936

http://www.simei-gakuen.ac.jp

弁護士 佐渡春樹

(横手高校65期 昭和44年卒)

相続・離婚・交通事故・過払い
債権回収・不動産 等々

◆お気軽にご相談下さい(要予約)

初回相談料は無料とさせていただきます!!

＜京都事務所＞

京都市中京区新権木町通竹屋町上ル

☎075-212-2405(代表)

＜亀岡事務所＞

亀岡市安町釜ヶ前50番地1木村ビル3階

学び舎

石田塾

子どもたちの学びを支援し
地域の方々と共に 文化の継承と
次世代の育成を目指す学びの場です。

京都市中央区西ノ京南聖町21
市バス:千本三条朱雀立命館前
京都三条会商店街西口からすぐ

塾長 石田信義

(横手高校63期 昭和42年卒)

http://ishidajuku.main.jp

Email: ishida-shan@h3.dion.ne.jp